

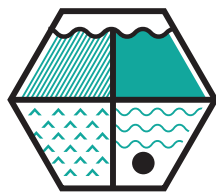


# 「真の観光立国に向けて」 観光庁の取組との連携スタート！

昨年6月から始まった！  
観光庁星氏とのご縁

昨年2022年6月16日の午後、私（淀江の宿今津田中家のオーナー田中洋子）は、鳥取県観光戦略課が企画された「ポストコロナ時代の魅力ある観光地づくり講演会」を聴くために鳥取市のとりぎん文化会館へ向かいました。

講演者は、観光庁の観光資源課長（当時。現内閣府沖縄総合事務局運輸部長／沖縄総合観光施策推進室長・観光庁本庁観光政策調整官（兼務）の星明彦さんで、配布された資料のタイトルは「真の観光立国へ向けて」。とても謙虚で気さくなお人柄が伝わってくる講演会で、お話しされていたことが、「淀江の宿今津田中家」や、昨年4月に立ち上げたばかりだった（一社）Bisui Daisen で目指していることと深い部分、理想の部分でもとても一致している、「観光庁も同じことを目指さきしそうになりました」。



## よどえのやど 淀江の宿 今津田中家 瓦版

第6号

2023.09 発行

### 田中洋子が星さんに送ったメール

本日お時間ギリギリで、二つ折りの名刺で名刺交換をさせていただいた株式会社ウォリス 田中洋子と申します。  
今日はとても貴重なご講演をありがとうございました。  
お話しさせていただいたことが自分が目指している方向と同じで、何度が嬉し泣きしそうになりました。（笑）

私は 2020 年 5 月に 34 年住んだ大阪から、鳥取県西部の米子市淀江町の実家に U ターンしてきました。  
父が亡くなり空き家となった築 90 年近くの実家を 20 代 30 代のユニークな若者の協力を得て、2018 年 12 月から 3 年がかりで延べ 200 人以上の手でリノベーションしてきました。  
テレワークで関西の小企業の経営をサポートする傍ら、昨年の 3 月からゲストハウス「淀江の宿今津田中家」を「サステナブルな暮らしができるみんなの実家」として運営しています。  
スポーツタイプの e-bike を 5 台置いていて、泊まってくださった皆さんと一緒に周辺をサイクリングしたり、農漁業体験などを提供したりしています。

今年の 4 月に、一般社団法人 Bisui Daisen（美水大山）を設立し、観光地ではないこの地で、体験型・交流型のニューツーリズムの場を地域の方と一緒に共創しようとして取り組みを始めたところです。

U ターンして帰って来て、弥生時代に日本最大級の集落を形成したこの地で、古代から引き継がれてきている他を受け入れる寛容さ、人の温かさなども改めて体感し、必ずやここが体験型・交流型のニューツーリズムの先進地域・モデル地域になれる・・・と勝手に妄想しています。

長々と申し訳ありません。  
また何らかの機会にせこちらに泊まっていたらいいなあ～、いろいろとお話ししたいなあ～、一緒にサイクリングしたいなあ～（私は e-bike で一緒にします・・・）と勝手に妄想しています。

Facebook でも友達申請をさせていただきました。  
ご迷惑でなければ、Facebook でもよろしくをお願いします。

お忙しいことと存じますので、どうぞお返事はお気を遣われませんように。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

講演会の後、少しの時間設けられた星さんとの名刺交換の列に並び、ギリギリで名刺交換が出来たその夜、私は星さんにメールを送り、そこから Facebook のメッセージジャーでのやり取りが始まりました。  
その日は倉吉に泊まられていて、翌日 17 日はお昼過ぎに倉吉を出発、持参されたサイクリング車で大山を越えて米子空港まで行かれることがわかり、やり取りをする中で、その途中にうちに立ち寄ってくださることとなりました。  
17 時にスマホでのリモートでの打合せがあるということで書斎を使っていただき、その打合せ終了後、部屋などをご案内しながら、Bisui Daisen の代表理事のトールさんも一緒に、1 時間ほどお話しすることができ、とても謙虚で気さくなお人柄が滲み出

た会話の中で、やはり目指していること、やろうとしていることが同じだと感じる事が多く、また各地で実践されている様々なお話を聞いて、何度も心揺さぶられ、私たちのこれからの方向性を深化させることも出来た、とても素敵な時間となりました。  
その 2 週間後の 7 月 1 日、鳥取県観光交流局の局長 鈴木俊一さんがうちを訪問してくださいました。東京出張での観光庁訪問時に、星さんが鈴木さんに「Bisui Daisen は、観光庁の推し進める『第 2 のふるさとづくりプロジェクト』地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりのモデルとして可能性を持っている！」と伝えてくださったそうであり、それを受けての鈴木さんの訪問となりました。

その後、鳥取県観光交流局のご支援を受けて、星さんと何度かお会いし、また「高付加価値なインバウンド観光地づくり」プロジェクトに関わり始めることが出来ました。

2023年		2022年	
3月	1月	11月	10月
<b>「高付加価値なインバウンド観光地づくり モデル観光地」事業</b> <b>モデル地域認定</b> 「鳥取・島根エリア（日本の紀元・神話の國）」がモデル地域に選定される（全国から62件の申請に対して認定は11か所。※鳥取・島根県庁 & 島根…「(一社) Experience」		<b>沖縄視察</b> 星さんコーディネートで、琉球の創世神の聖地を沖縄本島の南から北まで巡り（私たちは車・星さんは自転車）、やんばる地域では地元の方との交流・体験を提供している宿に宿泊。 <b>地元の古民家巡り</b> 大山・淀江エリアの古民家等を星さんと巡り、活用法についてアドバイスを受ける。 （北村邸・大正蔵・吹野邸・天の真名井）※巡った古民家については、次号以降で紹介。	
<b>審査視察同行</b> 観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地」事業に、鳥取県国際観光誘客課が「どっとり観光未来共創会議」として10月に応募申請。その「鳥取県（大山エリア）」での審査視察にBisui Daisenshoも同行。		<b>審査視察同行</b> 観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地」事業に、鳥取県国際観光誘客課が「どっとり観光未来共創会議」として10月に応募申請。その「鳥取県（大山エリア）」での審査視察にBisui Daisenshoも同行。	

2023年4月以降、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」のキックオフミーティング後の交流会・11モデル地域が集まる合宿などが開催され、淀江がその会場となりました。次号では、その動きをご紹介します。

## 新たな観光立国推進基本計画（観光庁）

観光はコロナ禍を経ても成長戦略の柱、地域活性化の切り札。  
国際相互理解・国際平和にも重要な役割。我が国の観光を持続可能な形で復活させる。

<b>持続可能な観光地域づくり戦略</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光地・観光産業の再生・高付加価値化</li> <li>■観光DX、観光人材の育成・確保</li> <li>■自然・文化の保全と観光の両立等、持続可能な観光地域づくり</li> </ul>
<b>インバウンド回復戦略</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コンテンツ整備・受入環境整備</li> <li>■高付加価値なインバウンドの誘致</li> <li>■アウトバウンド・国際相互交流の促進</li> </ul>
<b>国内交流拡大戦略</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国内需要喚起</li> <li>■第2のふるさとづくり・ワーケーション等（何度も地域に通う旅、帰る旅）</li> <li>■国内旅行需要の平準化</li> </ul>

観光庁では、今後のインバウンドの本格的な回復を見据え、消費額増加、地方への誘客をより重視するという観点から、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある高付加価値旅行者の地方への誘客を促進することとしています。

## 世界はホンモノを求めている！

### 今、外国人観光客（特に高付加価値旅行者）が求めているもの

少し人とは違う旅をしたい

人との交流を体験したい  
日本人の親切で友好的な国民性が人気

観光地を巡るのではなく  
気づきなどを感じる体験や訪問

地方のローカル色の強い地域へ訪問

観光地化されていない  
地域の訪問

伝統的な本物の文化体験

#### ある京都寺院の話

海外VIPに京都で何が楽しかったかと聞いたところ、「名所旧跡めぐりも良かったが、ボディガードと一緒にお忍びで行った地元の焼き鳥屋で、お店の人と身振り手振りで交えてやっと注文できたことやお店のお客さんとコミュニケーションを取りながら食事をしたこと」との回答であった。

観光庁「上質な観光インバウンドサービス創出に向けて報告書（2021年6月）」より一部抜粋

## 「鳥取・島根」が、総合的な施策を集中的に講じるモデル観光地に！

観光庁では、高付加価値旅行者の地方への誘客に必要な課題や取組を、ウリ（高付加価値旅行者のニーズを満たす滞在価値）、ヤド、ヒト（地方への送客、ガイド、ホスピタリティ）、コネ（海外高付加価値層とのネットワーク、情報発信）+アシの5つの観点から、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりアクションプラン」を取りまとめ、それに基づき集中的な支援を実施する11のモデル観光地が選定されました。



大豆で豆腐 & 菓子作り



海水から塩作り

豆腐作り

淀江の宿 今津田中家のカフェスペースで、自家製黒豆大豆を使って豆乳を作り、豆腐や豆花（トーフ）やおからクラッカーなどのお菓子作りをしてみませんか？

○海水を汲んできて塩とにがりを作って豆腐に使う

○大豆から油を搾る ○きな粉を作る

などの体験も有料オプションで可能です。

体験費

5,500円（豆腐2丁分）+（550円×参加人数）

かまどでご飯



淀江の宿 今津田中家の江戸の間には、かまどと囲炉裏があり、宿泊のお客様にかまどでご飯炊きなどを体験していただいております。

湧水（天の真名井・本宮の泉）などを使い、淀江の宿 今津田中家の自家製天日干しはで掛け米きぬむすめをかまどで炊いてみませんか？とても美味しいごはんが炊けます。

体験費

2,200円+（500円×参加人数）

※自家製大豆と自家製きぬむすめの米麴で作った味噌を使った豚汁付

かまどでご飯 & 黒豆大豆で豆腐お菓子作り

日替わり店長カフェ紹介

すまいるびとsanin

数量限定



すまいるびとsaninのランチは「おむすびとみそ汁」。田中家さんのはでかけ米に、すまいるびとsanin仕込みのお味噌など、素材にこだわって、心を込めてお作りします。ぜひご賞味ください。カフェメニューは、オリジナル野草茶 & 甘酒ボウル とよもぎパウンドケーキ。免疫力アップのドリンクメニューとして梅酵素ジュース、パーモンド酢ジュースをご用意しています。

9月は30日土曜日 11:00~16:00 ランチ & カフェの1日のみの営業になります。ご予約お待ちしております。

- おにぎり & お味噌汁セット ¥1,000
- 甘酒ボウル & 野草茶セット ¥1,000
- とよもぎパウンドケーキ & 野草茶セット ¥1,000
- ドリンクメニューはいずれも ¥500

※いずれのメニューにもドライ野草の足浴体験付き♡



淀江の宿今津田中家

数量限定



地元野菜たっぷりのキーマカレーやスープ・自家製黒豆のおからサラダ、自家製黒豆や梅のスイーツ & ドリンク、珈琲・ラテなどを提供します。

- 淀江の宿今津田中家 自家製ランチ ¥1,100
- ※自家菜園で採れたものと淀江漁港で獲れたものを使ったランチ
- キーマカレー・スープセット ¥1,100
- ラテ (HOT・ICE) ¥550
- 黒豆スイーツ (アイスクリーム・豆花等) ¥330~
- 梅ドリンク ¥440~



「淀江の宿 今津田中家」の宿で提供している地元食材を使った朝食・江戸時代の朝食作り体験・BBQは4名以上でご予約を承ります（7時~21時）。詳細はWEBサイト等でご確認ください。

9月の日替わり店長カフェスケジュール

9/9(土)

ランチ ティー  
11:00 - 16:00

淀江の宿今津田中家

9/19(火)

ティータイム  
14:00 - 16:00

淀江の宿今津田中家

9/12(火)

ティータイム  
14:00 - 16:00

淀江の宿今津田中家

9/23(土)

ランチ ティー  
11:00 - 16:00

淀江の宿今津田中家

9/16(土)

ランチ ティー  
11:00 - 16:00

淀江の宿今津田中家

9/30(土)

ランチ ティー  
11:00 - 16:00

すまいるびとsanin

# 連載「淀江プロジェクト」物語 [第五話]

「淀江プロジェクト」とは、今津田中家という一軒の古民家を巡る物語である。

第5話：そうだ、離れをゲストハウスにしよう！



「淀江プロジェクト」は、今津田中家という一軒の古民家を巡る物語である。このプロジェクトは、古民家の再生と地域の活性化を目的として行われている。この物語は、プロジェクトの進捗や参加者の思いを伝えるために連載されている。この物語は、プロジェクトの進捗や参加者の思いを伝えるために連載されている。

## 相続した土地と建物をどう活用する？

2018年の台風21号を機に「今後大きな災害が起きたときに大阪からの避難場所として、淀江が有効活用できるかもしれない。」と認識を変えた洋子。

その後、父の一周忌の法要のため9月14日〜16日、弟衆の家族とともに、淀江にまた集合した。父母の残したラブレターを洋子が文字おこしをして持参し、残っている様々な写真も見ながら、思い出に浸る洋子と衆。そして、相続手続きを終えて、売れそうにないということで一年そのままにしていた土地と建物をどうするか・・・という話題になる。

ここで育った私たちから見たら交通の便も悪くてとても中途半端な所だと思っただけで、先日大阪から遊びに来た友人親子は『ものすごくいい所だ』『羨ましい〜』って何度も言ってくれた。

そういえば、離れには、昔からたくさんの人たちが集まったり、時には泊まったりしていた。母の友人がよく集まったり、洋子の高校時代もクラスの女子が6人くらいで泊まったり、洋子の大学時代には、洋子本人が帰省していないのにもかかわらず、アーチェリー部の仲間がスキーのために離れに何日も泊まったり、衆の先輩も同じくスキーで1ヶ月も滞在したらしい。そんな会話から、改めて、当時の離れは気軽に泊まれるスペースだったことを認識した。

## 離れのゲストハウス化に向けて動き出す！

「社会人になってからもいるんな人が遊びに来てたよね。ここ、ゲストハウスしてもいいかもね！母屋は片付けが大変だからこのまま置いておくことにして、まずは離れをゲストハウスにしようか。ウオリス（洋子が2008年に設立した株式会社）で運営する形でもいいかもしれない。」

法務局に登記相談に行き、その足で「鳥取県西部総合事務所」の生活環境局 環境・循環推進課の民泊相談窓口を訪問。担当の遠藤さんがとても親切にゲストハウス開設の流れを教えてください、民泊と「簡易宿所」という大きくは2つの申請方法があることを知る。

9月15日は洋子の出身校米子東高校のGOGO（55歳）同窓会が重なり、ちょうど帰省していたので参加できたのだが、同級生の旦那様が一級建築士だということも分かるようになった。離れを見に来てもらえることになった。

内装・外装工事に200万円くらいかかる・・・というところで、正式な見積もりをだしてもらったことになり、この3日間で離れのゲストハウス化に向けて急速に動き始めた。

― 第六話に続く ―



作者・田中洋子

株式会社ウオリス代表取締役。淀江町今津にある実家を多くの人の手を借りてリノベしてウターンし、宿として活用。

「淀江プロジェクト」物語

【第五話】



ホームページ



お問い合わせ

淀江の宿 今津田中家  
〒689-3401 鳥取県米子市淀江町今津 50-1  
TEL : 0859-30-3889  
www.imazutanakaya.com



今後はLINEを始め各種SNSにて瓦版を発信していきますので、ぜひご登録をお願いいたします。



LINE公式アカウント  
お店のポイントが貯まる！

